

第2回あり方検討会における今後の方向性の議論に向けた意見整理
(I コロニーの役割、求められる機能について)

1 入所機能について

- (1) 障害者支援施設として入所機能は残し、規模を縮小した上で市街地へ移転してはどうか

(委員から出された意見)

- ・ グループホーム等では重度化・高齢化した入所者について介護や医療面で対応をするのは難しい。
- ・ 経営上規模が大きすぎるため維持するだけでも大変。次の50年を見据えて、コンパクトに規模を縮小していくべき。
- ・ 現在地は福祉施設には合わない。立地条件のよい場所に移転し、100人程度の適正規模にするべきでは。
- ・ 介護が必要な方は今後さらに増えていくと思われるが、診療所だけで医療を担うのは厳しい。現在地では冬場に救急車を呼ぶのも大変であり、立地は市街地に近い場所がよい。

- (2) 新たな機能を付加した上で施設を分散設置してはどうか

(委員から出された意見)

- ・ 重度障害、強度行動障害など他の民間施設では難しい役割を担う特色ある施設としてはどうか。
- ・ 指導・相談機能や研修機能を有するなど、他の施設を指導する施設にしてほしい。
- ・ 先進的な福祉サービスを秋田から発信できるような施設としてほしい。
- ・ 障害種別を特定しない一般的な障害者支援施設では強度行動障害に特化することは難しく、ハード面を整備し専門的な施設が必要なのでは。
- ・ 教育機関や医師と協力した強度行動障害の専門施設があればよいのではないかと。
- ・ 分散設置をする場合は、単純に各地域へ設置するということではなく、コロニーで雇用している職員の問題や地域の実情を勘案する必要があるのでは。

- (3) 介護的ケアや医療的ケアに対応するため医療機関や高齢者施設などと連携する施設としてはどうか

(委員から出された意見)

- ・ 医療機関、介護施設、高齢者施設をうまく組み合わせ、切れ目なく障害者福祉サービスから介護につながるような施設としてはどうか。

2. 緊急時のセーフティネットについて

緊急時に対応困難な障害者を、医療機関や高齢者施設と連携し一時的に受け入れる緊急時セーフティネット機能を持つ施設としてはどうか

(委員から出された意見)

- 重度障害者の緊急入所については、特別養護老人ホームと連携して受け入れてはどうか。
- 教育機関や医師と協力した強度行動障害の専門施設があればよいのではないか。(再掲)
- 強度行動障害の方が特別養護老人ホームに入所する事があり、特別養護老人ホームと障害者支援施設が連携することは可能では。

3. 親亡き後の支援体制について

親亡き後、障害者が安心して暮らせるよう地域全体で支える枠組みの中で、高齢者施設等と連携しながら支援する施設としてはどうか

(委員から出された意見)

- 家族としては親亡き後、障害者支援施設の入所を希望している方々もいる。
- 各地域や圏域ごとに対応できれば家族は安心できるのではないかと。
- 障害者支援施設以外に特別養護老人ホームで対応ができる場合はそちらにつながるようなサービスがあればよい。

4. 災害時の避難先について

災害時の避難先としての位置付けを検討してはどうか

(委員から出された意見)

- これまで災害時に避難所としてコロニーが使用されたことはないが由利本荘市との協定に基づく福祉避難所となっている。
- 避難所としての機能は今後も必要では。

5. 地域の福祉（地域協同ネットワークの構築）について

他の障害者支援施設等との連携・情報共有を図る地域の共同ネットワークづくりの主体的な役割を果たすべきではないか

(委員から出された意見)

- 能代山本地域で強度行動障害等の利用者への対応に係る法人間の情報共有が図られており、法人の運営を維持していくためにも、地域共同ネットワークの構築は実際に動いていかないといけない